



TITLE:

座談会 - 新しい図書館をみて -

AUTHOR(S):

CITATION:

座談会 - 新しい図書館をみて -. 静脩 1965, 2(2): 4-5

ISSUE DATE:

1965-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36271>

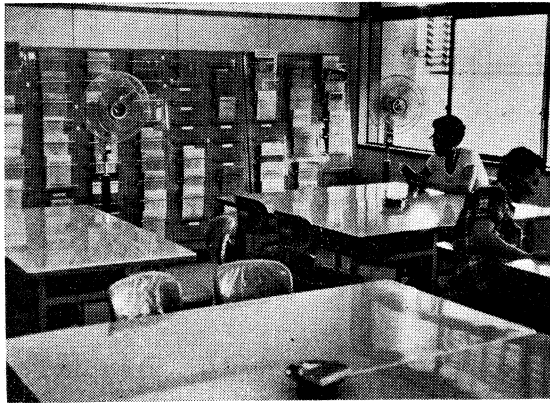
RIGHT:

書室でつくっているのではなかなかどうして忙しい。

閲覧資格は、大学院の学生以上の研究者で、共同利用研究所であるから、当研究所以外の人も利用を歓迎する。しかし目下のところ、所外からの利用者は少ない。

図書室は、まだ生まれたばかりのヨチヨチ歩きである。利用者のためのサービスも軌道にのっていない。問題もいろいろある。書庫は、いわゆる書庫としての建て方ではない、

こういう時、図書の保管をあづかる者として、ほこり、湿気などからどうして図書を守っていくかという問題がある。この書庫のスペースで、毎年3千冊購入していけば、今に、図書をおく場所に悩むのではないだろうか心配にもなる。図書室が3階にあることも、いろいろの点で苦勞する。現場職員の意見もいれてもらえたらというのが、ささやかな願いである。



数 研 閱 覧 室

座 談 会

新しい図書館をみて

(6月30日於医学部図書館)

静脩委員会では、最近新しくできた医学部図書館の竣工に際して、数理解析研究所図書室、経済研究所資料室をも含めて、その見学を行ない、医学部図書館において、2名の医学部学生をまじえて、「京大図書館に対する希望を述べる会」とでもいうべき座談会を催した。以下、このときの発言を要約してお伝えしよう。

新しい図書室について

A：一般的に見て、学内の各図書室は従来から、建物の片隅か、屋上に近いような所に迫いやられた傾向にあり、これでは、図書館の効果的、かつ能率的な運営という点からは、不便な所が多かった。

B：このような問題は、大学の中で図書館の占める位置を、みんながどう認識しているか、ということにつながっている。

C：それには、図書館側のPR不足もあるのではないか、やはり図書館というからには、利用者第一に考える必要がある。

D：たとえば、経研資料室では利用者がすべて研究者に限られているから、研究室と資料室とを同じ階に設けてその点を考慮されている。

E：医学部図書館では、事務室と書庫の間に閲覧室があるが、これは円滑な出納事務を行なう上でさまたげられないだろうか。

F：勿論そのことも考えたけれども、閲覧室の収容力を増すために、やむを得ずこういう設計になった。これについては、閲覧室内に可能な限りの新刊書架をおくことによってカバーしていくつもりだ。

E：研究者本位の立場からいうと、書庫内にキャレル（庫内閲覧机）をおくのが良いと思うが。

F：この問題については、庫内にメモ台つきの椅子を備えることを考えているし、又医学部図書館には、3階に個人閲覧室も設けてある。

G：いずれにしても、このように建てしまった後で色々注文をつけるよりも、将来はでき上げる前に図書館員の意見も充分述べられる場を作って欲しいと思う。

A：経済研究所の書庫は、さすがに書物が研究の中心になる研究所らしく、防湿換気等、資料の保存に相当意を用いておら

れる。できたらこれから建つ書庫も、百年の先を見通して、スペースと保存体制を考えて欲しいものだ。

B：自然科学系の部局では、実験が中心であり、重要な資料は図書よりも、むしろ雑誌である。これらとて、早晚役に立たなくなり廃棄される運命にある。人文、社会科学系では、どんな資料でも貴重であり、保存される必要がある。こんなところに神経の使い方も変化する原因があるのではないか。

E：現在図書館関係者は、蔵書の激増と、その保存方法に悩んでいる。図書は、ふえることはあっても、決してへりはしない。この問題について、今日見学した三つの図書館は、新しくできたものだけに、どのような見通しを持っておられるのか、お尋ねしたいところだ。

F：しかし、こんな大きな根本問題は、各学部等で、現在の時点でいかに考えたって解決策は出ないだろう。それよりも、大学の中に、不急不要となった図書を専門に集める書庫を建てるという方向で考えなければ仕方がないと思う。

新しい学部図書館と学生について

A：学部等の図書室は、従来からややもすると利用対象として教官、研究者を第一とし、学生を第二義的に扱って来た。丁度、ここには医学部学生のYさん、Zさんも来ておられるから、新しい医学部図書館の建設を契機に、学生をどう扱う方針なのか、お尋ねしたい。

Y：図書館の運営委員会に大学院生や、学生の代表を参加させるということは考えておられるだろうか、学生の見たい本と、教官の見たい本には差があることだし…

F：学生の参加は認められていない。それにまだできたばかりで、規則自体検討中というところだ。

Z：個人的な意見に過ぎないが、学生の図書委員会を作って、そこで討議された意見や希望を反映してもらえるようにはできないだろうか。これまで、図書の購入には、学生は全く関係がなかった。医学部の場合、私自身も、古い図書室をのぞいて見たこともない。研究室単位の図書室ではなく、学部単位の図書館となれば、学生のことも考えて欲しいと思う。

F：学生閲覧室を設けてあるし、学生の利用を考えているからには、その希望はで

きる範囲で満たされるようにしたい。

Z：医学部卒業生で組織されている芝蘭会の図書部には現在3,000冊余りの蔵書がある。これも、こんな立派な図書館が建てば、見に来る人がなくなってしまうだろうから、この蔵書を図書館へ移すことは出来ないだろうか。

A：芝蘭会寄贈ということにでもして、それに芝蘭会文庫という名称を与えれば技術的に可能だと思うが。

B：医学部図書館の如く、研究機関、教官、学生等多様な利用者を持つ図書館では、収書についてのプリンシプルも、相当考える必要がある。

Z：何しろ医学関係では、教科書でも非常に高価で、貧乏な学生には買うことも出来ない。医学部に限らず、この教科書購入の問題は、大学としても何か対策をたてて欲しいものだ。

B：いずれにしても、今までのように学部図書室が、学生に対しては全く二のつぎにしか考慮をはらっていないということは、是正されることが望ましいことは確かだ。そのためには、学生側からも積極的に働きかけることが必要だし、図書館も、あるべき理想像についてPRし、発言力を養わなければならない。

Y：医学部では夜間開館は考えておられるのか。

H：人員不足や館員に男が2名しか居ない現状では夜おそくまで仕事をするのは不可能だ。

Z：それでは、医学部の学生にとっては、授業の時間中開かれていて、さて利用できる時間になると閉館されてしまうということになる。

F：勿論人員の問題その他が解決して、夜間も開けるようわれわれも努力する。

A：夢のような話や、現実の問題などが飛び出して、まとまりのない座談会となったが、それはそれとして、ここで結論的にいえることは、今日話された問題点の中には、図書館側と利用者側相互の意志疎通が、従来円滑に行なわれていなかったということである。今後は、利用者ともっと密接に結びつき、又、部局の違いを乗り越えて、図書室同志も横のつながりを深めなければならないと思う。図書館にある問題は、そのような全体の努力で一つ一つ解決しなければならないということがわかった。